

教育目標		心豊かに、健やかに生きる子供の育成						
重点目標		(1) 遊びや生活の中で、様々な学びができる保育のあり方を探り実践をする。 (2) 家庭、地域から信頼できる幼稚園づくりをする。						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
学力の向上	自ら心を動かし育つ仲間の育成	<ul style="list-style-type: none"> 研究テーマ「心を動かし育ち合う仲間づくり」を研究の視点とし、自ら感じ考え、行動する子供の育成に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育計画は月2回協議を行い、全職員で共通理解を図り、意図した環境の構成や教師の援助を行う。 学級経営目標、研究テーマを年度当初に明確に設定し、環境に関わる中で、自分で感じ、考える力を育てる保育実践に取り組む。 保育環境を中心とした園内研究会を全クラス毎学期に1回行い、研究協議を重ね、教職員の保育実践力を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 園からのたよりやクラスだよりなどで保育のねらいや子供の姿を伝え、保護者アンケートで「幼稚園は、自分から遊びを進められるような環境整備がなされている」と回答した割合が80%以上になる。 保護者アンケートにおいて、「幼稚園は『心豊かに、健やかに生きる子どもの育成』という保護者の願いに添えている」と回答した割合が80%以上になる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートの結果は、どちらの項目も、95%以上の評価を得ることができ、達成することができた。 保育実践では、好きな遊びのときの園庭や保育室の使い方などを職員会議で話し合い、全職員で連携しながら「心を動かし育ち合う子供の育成」に努めた。 園内研究会については、講師を招聘し毎学期行うことができた。 2ヶ月に1度のペースで事例研究やエピソードの収集をすることができた。しかし「心動かし育ち合う仲間づくり」については、今年度は教師との関わりの場面を捉えることが多かったため、今後も学んでいく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後は、研究テーマを全職員が常に意識した上で、保育計画を立てたり、保育実践を行ったりし、園全体で連携を深めながら保育実践力を向上させていけるよう取り組む。 保育環境の見直しは、今年度同様、月2回保育計画を立てる前に行っていくようにする。 園内研究会等の研究については、2022年度の市内発表に向けて、今後も、事例研究やエピソードの収集は、1~2ヶ月に一度のペースで行っている、研究を深めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 多忙な中、研究会や月2回の保育計画の話し合いなど日々の努力がよく分かる。 例年とは違う環境の中遊びや体験の工夫をした事で子供達が主体的で意欲的に遊びを広げる姿が見られた。
	インクルーシブ教育・保育の推進と充実	<ul style="list-style-type: none"> 組織的、計画的なインクルーシブ教育の充実に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 学期に1回以上、ここにこだよりを発行し、保護者のインクルーシブ教育・保育に対する理解推進を行う。 必要に応じ、学校園コンサルテーションを利用する等、外部機関との連携を図る。 全教師で子供達の姿を共通理解し、具体的な支援を共通に行う。 遊具ファイルを最新にし、拠点園としての取り組みを他園に発信する。 親子の関わりや個別の支援を目的としたにじいろ広場を2学期より行う。 インクルーシブ教育・保育に関する研修会に積極的に参加し、教師の資質向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートで「幼稚園は一人一人の発達や課題に合わせ、その子に応じた実践をしようとしている」と回答した割合が80%以上になる。 2学期以降、コンサルテーションを学期に1回ずつ行う。 2週間に一度、特別支援の子供達の職員会を設け、支援の仕方を共通理解する。 拠点園として、3学期にはにじいろ広場が見学できる機会を設ける。 にじいろ広場による感覚統合遊びや親子遊びを2学期より年間6回行う。 インクルーシブ教育・保育に関する研修会に教師が年1回以上参加する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートで目標に掲げていた回答の割合はA評価とB評価を合わせると100%であったことから、目標は達成されたと感じている。今後も一人一人を大切にしたい保育を行っていきたい。 コンサルテーションでは、毎月1回実施した。学級経営や個別の支援法など具体的にご指導いただき、沢山の学びがあり、目標は達成された。 2週間に一度の話し合いも、あらかじめ園務日程に組み込んでおいたので、計画的に行うことができ、職員全員での共通理解の場となった。 にじいろ広場は2学期より開始し、3学期の予定も入れると6回達成できた。他園にも見学案内を送付し、近隣園から来てくださった。 今年度はリモートではあったが、たくさん研修に参加でき学びを得た。ただ、研修会に参加したのは特別支援担当のみであったことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> コンサルテーションでは、各学年毎に指導頂く日とは別に、各クラスで対象児以外で配慮が必要な子供達を早めに見てもらおう。また、にじいろ広場の指導も計画する。 拠点園として、3学期にはにじいろ広場が見学できる機会を設けるとあったが、感染症対策より、今年度は見学のみとなった。今年度近隣園より見学に来ていただいたことで、実際に子供達の様子を感じていただけたことは大きい。しかし、今後、他園でまだ見学に来られていない園への発信を繰り返し続けていく必要がある。 リモートであれば、特別支援担当だけではなく参加が可能である。担当以外の教師にも関心をもって参加できるように計画する。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援が必要な子が、周りの子供達と共に成長していけるよう一人一人の特性に応じた支援や教育をされている。今後も拠点園としての役割を果たしながらきめ細やかな支援をし、より一層の充実に期待したい。

豊かな心・健やかな身体	人権教育の推進・充実	<ul style="list-style-type: none"> ・子供、保護者へ人権教育を推進する 	<ul style="list-style-type: none"> ・『一人一人の違いやよさに気付き、認め合い、励まし合える仲間づくり』をテーマに自分も友達も大切にする保育を進める。 ・園からの配布物を通して、人権教育につながる具体的な子供の姿や事例を紹介する（にこにこカードを使った取り組み、絵本や紙芝居などの教材を使った活動、飼育栽培活動の様子など）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートにおいて「幼稚園は、子供が園生活を通して、自分を大切にすることや、他の人への思いやりの気持ちを育てる保育を行っている」の項目の回答が80%以上になる。 ・園と家庭とで協力して人権教育に取り組めるよう、毎月ここにこカードの目標を決め、ホールに掲示したり園だよりに掲載したりする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートで99%の評価を得ることができ、目標を達成できた。 ・今年度はコロナの影響はあったが、人権作文を通した研修を全保護者に向けて実施することができ、たくさんの感想をいただくことができた。 ・学級懇談会に人権の内容を含んで実施することができたが、人権のテーマやここにこカードの取り組み等について伝えることはできなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は研修の機会が少なく、保護者の意識差もあったと思う。目を通してもらいやすい学級だよりで人権教育を啓発するなど配布物の工夫が必要である。 ・今後も学級懇談で人権をテーマに話す機会を設け、身近なことを切り口にしながら、園での取り組みなども伝えるようにしていく。 ・事例発表の機会があったので、改めて職員間でテーマについて学ぶことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が人権について学ぶ機会が少なく園での研修は唯一の場である。今後も内容を工夫し、学べる機会を提供してほしい。
	体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な体力の向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の実態に合わせて必要な動きの経験が出来るよう、引き続き保育の中に運動遊びを計画的に取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートにおいて「運動遊びの楽しさを感じており進んで戸外で遊ぼうとする」の項目の回答が85%以上になる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートで97%の評価を得ることができ、目標は達成できた。 ・今年度は、運動会がなかったがパカポコ、一本足下駄、縄跳び、鉄棒などに挑戦しながら遊ぶことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も全身を使い、体幹を鍛えられる運動遊びを計画的に取り入れる。 ・様々な運動遊具に挑戦ができるような環境を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でも遊戯室でサーキット遊びやミニ運動会など楽しく運動遊びが出来る環境を整えていた。
	基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に保健学習を実施する。 ・4、5歳児は定期的に、健康に関する目標を提案する「けんこうカレンダー」を配布し、親子で取り組んでもらう。3歳児は、長期休業中に「がんばり表」を提案し、親子で取り組んでもらう。 ・保護者への啓発として、月1回以上「ほけんだより」を配布する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「けんこうカレンダー」を親子で取り組んでいる家庭が90%以上になる。 ・保護者アンケートにおいて「幼稚園での健康教育について、けんこうカレンダー、がんばり表ほけんだよりなどの啓発により、家庭での取り組みにつながっている」の項目の回答が80%以上となる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・90%以上の家庭が親子で取り組むことができた。 ・保護者アンケートで91%の評価を得ることができ、目標は達成できた。 ・一部の家庭での取り組みを、「ほけんだより（けんこうカレンダー号）」で紹介することで、各家庭での取り組み方や子どもの健康に対する取り組みを知ることで、より効果的に取り組んでいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も子供の実態に合わせ、保健学習、けんこうカレンダー、がんばり表の内容を検討する。 ・今後も家庭への啓発を続けていくと共に、子供たちにも継続して取り組むように促す。 ・子供たちの家庭での取り組みを知るためにも、家庭との連携を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高評価を得ているのは日々の先生方の取り組みの成果である。健康教育は生涯教育ともいえる。幼児期にしっかりと根付く様に取り組んでほしい。

開かれた信頼される園づくり	教育活動への理解推進	<ul style="list-style-type: none"> 家庭や地域に積極的に情報発信する。 保護者が毎日の連絡事項を順次見ることができるよう番号をつけ掲示して丁寧に知らせる。 ホームページ等で写真等を使いわかりやすく園の情報を発信する。 園で取り組んでいる遊びや行事で掲示出来る物は、ホールに展示し、子供たちの様子を伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者全員に知らせる事や、学年毎に知らせる内容などを掲示の仕方を工夫し、視覚的にわかる内容で毎日伝える。 毎月9回はホームページを更新し、保育の様子を発信する。 毎月1回は写真を入れたクラスだよりを発行し、保育の様子を伝える。 保護者アンケートにおいて、「幼稚園の情報をわかりやすく保護者に伝えている」と回答した割合が80%以上になる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートについて、目標としていた80%を超え、99%の評価をいただいたことから、目標は達成できたと感じている。 ホームページは、月9回の更新を上回り、行事ごとにタイムリーに更新することが出来た。 クラスだよりも参観日の前には写真入りで全クラス発行することができた。 毎日、昨日の保育をスライドショーにて登降園時に流し、子供たちの様子を発信することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページの回数は目標を達成できたが、限られた職員だけが行うのではなく、様々な立場からの発信ができるように、当番を決める等、意識をもって取り組めるようにしていく。 保護者全員にお知らせする内容が、時々全員に行き届かないこともあった。内容が新しくなった時や、内容が変わった時には、降園時に再度知らせると共に、ホワイトボードで知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 高評価からも積極的な情報発信の成果が見える。クラスだよりやスライドショーは保護者にとって子供の姿や保育内容がよく分かるので今後も工夫して発信してほしい。
	子育て支援の推進	<ul style="list-style-type: none"> 家庭と地域と連携した子育て支援の推進を行う。 拠点園として、子育ての悩みが相談できるように、毎日の降園連絡掲示の際に、わからないことがあれば、いつでも相談できるようにしておく。 	<ul style="list-style-type: none"> 「みんなのひろば」を2学期より年6回実施し、参加人数20組を目標にし、理解を深める。 月に一回の「みんなのひろば」では、2学期以降、園児と一緒に好きな遊びを楽しめる機会を設ける。 保護者アンケートにおいて「幼稚園は、園庭開放や未就園児対象の遊びの広場などを通して子育て支援の場を設けている。」と回答した割合が80%以上になる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「みんなのひろば」は2学期より実施することができた。また、感染症対策の面から、全学年が一度に集って一緒に遊ぶことはできなかったが、順次各学年の子供たちと一緒に関わって遊ぶことができた。 保護者アンケートでは、99%の評価をいただき、目標は達成できた。しかし、今年度は社会情勢を踏まえ、園庭開放を行うことが難しかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 月に一回の「みんなのひろば」では、3学期も順に園児と関わって遊べるように計画をする。また、引き続き正門付近の掲示板にて翌月の予定を知らせていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 例年のような取り組みは難しかったと思う。公立幼稚園は地域の子育て支援機関でもあるので、園の情報を発信し、幅広く知ってもらえる場を設けてほしい。

学校関係者評価総括

- 2020年度はコロナ禍の中、園児が目標通りに育成出来ている事がすばらしく、インクルーシブ教育の充実も評価出来ると思います。
- コロナ禍の中では、今まで出来ていたこと、活動や交流などが思うように出来ず、大変な苦労があるかと思っています。その様な状況の中でも第一に子供とその保護者の事を考え、生活の中に「健康カード」「がんばり表」を活用し親子で楽しみながら健全育成に取り組まれている所では、親子共に褒められるとお互い嬉しい気持ちになるので、そういった喜びはとても大切だと思います。園に行けなくてもホームページやお便りを見ていると楽しい幼稚園だという事が伝わってきました。
- 教育目標や重点目標に向かい、職員が連携して保育に取り組まれている。又日々の教育活動をしっかり地域や家庭に啓発しておられ保護者と子供の育ちを共有されている。

次年度に向けた重点的な改善

- 今年度の成果と課題を職員間で共通理解し、共有する事が大切である。それらを次年度の教育に活かし子供が「行きたくなる幼稚園」保護者が「子供の成長を喜べる幼稚園」地域が「共に子育てする幼稚園」になる事に重点を置きたい。
- 次年度はコロナ対策も進むと思われる。子育て支援の推進はより強化されるべきなので、園と家庭と地域が一体感を味わえるような機会をさらに充実出来る様、行事のあり方や交流の方法について工夫が必要だと考える。